

◆ 三条大橋の補修・修景【特集】

● はじめに

今回は、現在工事を行っている“三条大橋の補修・修景”について特集いたします。京都の玄関口である三条大橋がどのような歴史を歩み、今後どのように生まれ変わるのか、分かりやすく説明します。



更新工事前の三条大橋

● 三条大橋の歴史と現在

三条大橋は鴨川に架かる橋長73mの橋梁です。歴史に初めて登場したのは室町時代とされており、その後、洪水による流出などにより、幾度となく架け替えが行われてきました。木製の高欄に擬宝珠（ぎぼし）がある現在の姿となったのは、天正18（1590）年に豊臣秀吉が行った改修工事のものです。現在も当時の「石柱」や「擬宝珠」が使用されていると言われています。

室町時代に初めて歴史に登場。架設当初は木製の仮橋であったと言われています。



洛中洛外図屏風（歴博甲本） 国立歴史民俗博物館所蔵



豊臣秀吉の時代から継承してきた擬宝珠は今回の工事でも引き継いでいきます。



現在の三条大橋は昭和25（1950）年に改築しもので、木製高欄については、昭和49（1974）年に更新されました。現在では老朽化が進行しているため、木製高欄、舗装及び防護柵等の更新を行っています。



三条大橋の木製高欄（木材の腐食、ひび割の状況）

● 三条大橋のデザインについて

◎デザインの決定について

景観デザインの専門家、地元関係者、市民公募委員などにより構成したデザイン検討会議を開催し、改修後のデザインを決定しました。

◎デザインコンセプト

以下4点をコンセプトとして、デザインを検討しました。

人々を暖かく迎える、みやびな京都の
玄関口としての橋

豊かな歴史と文化を未来に継承する
京都らしい橋

京都の自然環境になじみ、まちを
彩るシンボルとなる橋

安全・安心を与え、周辺のまちの
発展に資する橋

◎デザインについて

検討を重ねた結果、以下のデザインを採用しました。細部まで説明していきます。



木製高欄

歩道舗装

防護柵



夜間照明（歩道）



夜間照明（橋梁側面）

木製高欄：みやこ杉木（市内産）を使用、現在の形を継承、擬宝珠は再利用

歩道舗装：和柄（市松模様）、伝統色の銀鼠色を採用

防護柵：和柄（麻の葉模様）、伝統色の檜皮色の柱を設置

和柄

市松模様：伝統的な格子模様的一种

- ・伝統工芸品や浴衣の柄などに使われる
- ・繁栄の意味が込められている

麻の葉模様：麻の葉をイメージした柄

- ・魔除けの意味や成長を願う柄として使われる

伝統色

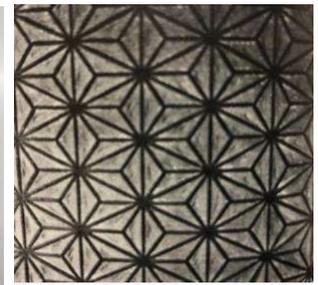
- ・日本に古来より伝わる色
- ・原色とは少し違う色味

檜皮色：深い赤茶系の色

銀鼠色：ほんのり青みを含んだ灰色



市松模様、銀鼠色の歩道舗装



麻の葉模様（防護柵）



檜皮色の石柱

● 最後に

三条大橋の工事は令和5年度中の完成を予定しております。京都の玄関口にふさわしい三条大橋を継承するため、工事に鋭意取り組んでいきますので、ご支援・ご協力の程よろしくお願いいたします。

◆ 京の橋の紹介 特別編②

巽橋 (たつみはし)

場所：東山区元吉町

道路名：一般市道弥栄経7号線

河川名：一級河川白川

橋の種類：鋼桁橋

橋長：7.5m

幅員：3.1m

完成年：昭和32年



京の橋しるべ第3号で紹介した“巽橋”は平成30年度に約20年ぶりとなる木製高欄の更新を行いました。三条大橋と同じ木製高欄を持つ巽橋について、更新工事に注目してもう一度特集いたします。

巽橋は、江戸末期から明治初期に建築された祇園新橋重要伝統的建造物群保存地区に位置します。文政12年(1829年)に民費をもって初めて木橋が建設され、その後土橋となったのち、昭和32年に現在の橋になりました。「たつみ」という橋名は橋の北詰めにある辰巳大明神に由来するといわれ、橋のたもとにも玉垣が並びます。鋼橋ですが、石畳の舗装と木製の高欄によって、祇園の風情と見事に調和しています。

平成30年に木製高欄が老朽化が進行していることにより、約20年ぶりに木製高欄の更新工事を行いました。くぎや接着剤を使用しない木組み工法は、接続部の突合部分は細やかな切り込みが施されており、非常に高度な「匠の技」が必要となることがわかります。なお、今回の更新工事では部材すべてに市内産(みやこ杉木)の檜を使用して施工しました。



木製高欄更新工事の巽橋

◆ 京(みやこ)の橋しるべについて

私たち建設局橋りょう健全推進課では、市民の皆様の安心・安全な生活を守るため、京都市が管理する「橋」の耐震補強と老朽化修繕を進めています。

その取組を市民の皆様にもっと知っていただくため、また、私たちの日常生活を支えるかけがえのない「橋」について関心を持ってもらい、身近なものとして親しんでいただくため「京の橋しるべ(みやこのはししるべ)」というリーフレットを定期的に発行し、市民の皆様に「橋」にかかわる様々な情報を発信しています。

「道しるべ」は、道路に目的地までの距離や方向を示し、道案内のために設置されたものですが、「橋しるべ」は私たちの「橋」に関する取組などをわかりやすくお伝えして(案内して)いきたいということで名付けました。

発行・お問い合わせ 京都市建設局橋りょう健全推進課(TEL 075-222-3561)



京都市では、橋の歴史や補修取組、有名な橋を紹介した冊子「京(みやこ)の橋しるべ」と、道路や公園などの損傷箇所を投稿するアプリ「みっけ隊」を配信しています。詳しくはWebで！ [京の橋しるべ](#)  & [みっけ隊 募集中](#) 

検索



検索

